
新春が来たから怖いコピペを貼る～夜道で イと出会った～

パンター

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

新春が来たから怖いコピペを貼るゝ夜道で イと出会ったゝ

【Nコード】

N1606BA

【作者名】

パンター

【あらすじ】

新年を飾る恐怖話をお送りします。

大晦日の早朝に出会ったものとは？

(前書き)

今年初の作品です。今年もよろしくお願いします。

大みそが前の12月30日の深夜。大晦日の早朝。

僕は友達と深夜まで飲んでいた。

明日(というか今日)の年越し詣での打ち合わせをしていたのだ。というのは口実だが。

自宅に帰って朝寝て昼に起きて夕方には出る予定だった。

終電到着時間をとくに過ぎ友人と別れた居酒屋の前から歩いていたのだ。どうせ歩いてもアパートまで一時間程度の距離だった。コートの際を立てていても冷気が首元から忍び込んできた。

月が出ていた。空気が澄んでいて月明かりだけでも十分地上は照らし出されていた。逆に人工の明かりが見当たらないような寂しく暗い道を歩いていたのだ。

しかしそれほど恐怖は感じていなかった。よくあるシチュエーションで帰宅していたからだった。

だが今日に限って背筋にビリビリ電気が走っていた。ほんのさつきからである。

風邪でも引いたのだろうか。

そうではない。

違うのだ。そういう悪寒ではなく、本能が知らせる危機意識がそうさせているのだ。

背後から。そう、後ろから何かがやって来る予感があった。

その直後、足音が聞こえてきた。

タツ。タツ。タツ。タツ。タツ。タツ。

テンポの良い軽やかな足音が徐々に大きくなってきていた。近づいてきているのだ。

振り向くと、そこには腰をくねらせて競歩スタイルの早歩きで接近してくる、印象どう見てもオネエ系の男が見えた。

しかも何故か白い全身タイツ姿。宴会芸でもしてきたのであろう

か。でもなぜ着替えて来なかった？

その男もこちらの視線に気づいた。そしてこちらが若い男性だと理解すると熱い視線を送ってきた。

「ま（ハート）こんな所で若い男がいるわ（ハート）」

彼は僕の横をずっと視線を送りながら通過していった。

生暖かい息を吹きかけられる。

「ウホ（ハート）なかなかカワイイ子じゃない」

男はしばらく前に進んでからこちらを振り向きこともあるように投げキッスしてきた。

「来年、あなたに幸運がありますように（ハート）」

そう言うと、男は足早に闇の奥底へと去っていった。

僕は自分の部屋に帰りついてもしばらくこの奇妙な戦慄感を消し去ることが出来なかった。

いったいあれはなんだっただろう。（十中八九酔っぱらいのゲイだと思う 答え）

(後書き)

気がついたら三が日終わってました。衛星放送で某魔法少年成長記の映画を見続けながら積読してあったラノベに手をつけ三冊目の西尾維新までたどり着いたら正月が終わっていました。今年始めからこれじゃあいけない感でいっぱいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1606ba/>

新春が来たから怖いコピペを貼る～夜道で イと出会った～

2012年1月4日01時51分発行